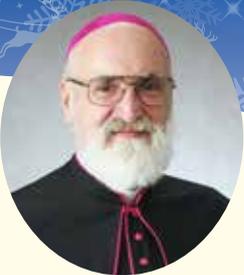


今年の教区の目標
 交わり深め 力あわせ
 救いのおとずれ広げよう

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
 カトリック那覇教区本部
 TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
 発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2022年12月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第769号 (12月号)

2022年クリスマス・ウェイン司教メッセージ 「幼子のように！」



カトリック那覇教区長
ウェイン・バートン司教

那覇教区の兄弟姉妹の皆さん、 クリスマスおめでとうございます。

神様の祝福と平和が皆さんと共にありますように。クリスマスミサで皆さんの健康と幸せを祈りいたします。

子どもの頃からクリスマスには、たくさんの想い出があります。クリスマス・イブには、いつもお婆さんの家で過ごしてから真夜中のご降誕ミサに与りました。毎年お婆さんの家にはサンタさんが訪れてくれました。そのサンタさんを見るとわたしは、いつも大声で涙を流して泣き出しました。姉と弟は平気で、怖がったのは私だけでした。サンタさんが帰ると、私はニコニコしながら親の膝に座ってプレゼントをあけていたのを思い出します。親がそばにいるなら、なにも怖くはなかったの

でしょう。

子ども

大人になった今ではサンタさんを怖いものと思いません。しかし、この世の中には本当に恐ろしいことが確かにあります。戦争、パンデミック、気候変動、格差、貧困な

子ども

などです。このようなことばかりを考えていると恐怖心に囚われ、心の平和を保っていることができなくなりま

す。確かにこのような課題を真剣に考え、それに取り組む必要があります。それはとても重要です。

しかし、その前に親である神様の愛のうちに魂を安らかに過ごす時間が必要です。どんなことにも動じない母の胸に安らぐ幼子のように！

主よ、
わたしの心は驕っていません。
わたしの目は
高くを見ていません。
大き過ぎることを
わたしの及ばぬ驚くべきことを、
追い求めません。
わたしの魂を沈黙させます。
わたしの魂を、幼子のように
母の胸にいる幼子のように
します。

イスラエルよ、主を待ち望め。今も、そしてとこしえに。

詩編一三一・1〜3

幼子を抱え、大変な逆境に

あった母マリアもまた、神との深い一致のうちに喜びと平安を感じつつ、冷静に厳しい現実を生き抜きました。その心は、まるですべてを委ねる幼子のようにでした。

表面的には不安な出来事に見舞われていても決してパニックに落ちいらず、それどころか予期せぬ妊娠、エリザベト訪問、数々の困難に直面する中でも、その魂は常に平和と喜びにあふれていたのです。

「私の魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます！」(ルカ一・46)と。

さあ皆さん、クリスマスです。自分自身の奥深く、魂の深みの中で、沈黙と祈りによって救い主の存在を感じ取りましょう。インマヌエルのうちに、幼子のように安らいで。



Be Like the Christ Child on Mary's Lap!



2022 Christmas Message

By: Bp. Wayne Francis Berndt

Merry Christmas! May God's blessing and peace be with you all. At my Christmas Mass I will be sure to pray for all of you. I will pray that the Lord will give you all good health and happiness during the Holiday Season and the coming New Year.

I have a lot of happy memories of Christmas from my childhood. Every Christmas Eve, my family would spend time at my grandmother's home before going to Midnight Mass. While we were there, Santa would always drop in for a visit. Whenever I would see Santa come into the house, I would always burst into tears and run away from him. My brother and sister were fine; I would be the only one who always cried!!! Once Santa would leave the house, I would stop crying, run to my mother and happily open my presents. I remember feeling that if my mother were by my side, no matter how afraid I was, I would be fine.

Now, that I am an adult, naturally I am no longer frightened by Santa. However, I do realize that there are some very real things in our world that are frightening. There are wars, pandemics, climate change, inequality, poverty and more that are very scary. If I only think about these types of things all the time, I can become overwhelmed and find it difficult to maintain my peace of mind. To keep my peace of mind, from time to time I need to turn to the Lord, and give my soul a little bit of rest. I can best rest my soul through prayer and meditation. There is a psalm that I like very much.

LORD, my heart is not proud;
nor are my eyes haughty.
I do not busy myself with great matters,
with things too sublime for me.
Rather, I have stilled my soul,
Like a weaned child to its mother,
weaned is my soul.
Israel, hope in the LORD,
now and forever.

(Psalm 131:1-3)



Mary gave birth to the baby Jesus at a very difficult time. She was faced with great adversity and at times there was a danger to her life and to the life of her baby. However, despite all that was going on around her, she told Elizabeth that in her soul, she felt deep feelings of joy. "My soul glorifies the Lord, and my spirit rejoices in God my Savior!" (Luke 1:46). How could Mary feel deep feelings of joy when she was faced with so many difficulties? She always remained recollected, no matter what was happening in her life, because through prayer and meditation, she constantly stayed connected with God. Like a loving parent, God gave to Mary all that she needed. God wants to do this for each and everyone of us as well. We only need to open our heart and soul to Him.

At this Christmas, let God give you deep feelings of joy and peace, by taking time to pray and meditate. Feel the presence of the Savior in your life. Let your soul, like a child on her mother's lap, partake of the joy of knowing that you are loved by God.

Blessed Christmas to Everyone!





聖フランシスコ・ザビエルの祝日 福音宣教の義務を思い出そう

ヨセフ・ブイ神父

泡瀬教会 主任司祭



た。彼はアジアの国、特に、日本へ宣教することを願っていました。教会の本質は宣教です。宣教すること、教会の使命であり、生存そのものです。わたしたちの宣教の任務は始まったばかりなのです。そしてその任務は、わたしたち—司教、司祭、修道者、信徒一人ひとりの聖性と熱意にかかっています。私たちの教区では、

起きています。そのため、もう一度宣教をし、神様のことを伝える必要があります。このことは、キリスト教国といわれている国の人たちに対しても言えることです。宣教は難しいことなのでしょうか？

もちろん、深い意味での宣教という仕事は、神様の業です。人々が神様のもとに戻れるのは、神の霊と恵みと助けによることです。よく知られているように、私たちは、持っているものを他の人に与えることはできません。まず、自分は何を持っているのか、と問うことから始めないといけません。聖フランシスコ・ザビエルの写真にある赤い心臓は、イエス (IHS) の愛の矢に射抜かれて、愛に燃え上がっています。そして、彼の口から出る言葉は、ラテン語で、"SATIS EST, DOMINE, SATIS EST" (主よ、もう充分です。これ以上の喜びに私の心は耐えられません) か (主よ、この心は浄化され、満たされています) です。大きな苦しみにあっても、祈るときには、喜びにあふれていたフランシスコでした。

イグナチオへの手紙で、フランシスコは、「アジアの人々をキリストの弟子にするという聖なる奉仕をする人がいないため、この地方には多くの人がキリスト者になれずに放置されています」と書いています。そして「主よ、私はここにおります。私が何をすることをとお望みですか。お望みの所へ私を送ってください」と祈りました。宣教するために愛徳心を持たなければなりません。周りの人に、思いやりや親切、関心などを与えないのなら、深い愛である神様を伝えることはできません。だから、宣教という仕事は大変なことなのです。

では、ルカによる福音でシモン・ペトロはイエス様に「先生、私たちは、夜通し苦労しましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」(ルカ五・5)と答えます。そして、魚師たちが、その通りにすると、おびただしい魚がかり、網が破れそうになりました。私たちも弟子たちのように、夜通し一生懸命働かなければなりません。夜があけて、少しでも休めると思った時、イエス様がお望みです。宣教という仕事は、失敗があっても止めるわけには行かないということです。また、宣教という仕事には忍耐が必要

日本をはじめとするアジア大陸の保護者の聖人である聖フランシスコ・ザビエルは、毎年十二月三日にお祝いしています。福音でイエス様は、「全世界に行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マルコ十六・15)とおっしゃいました。イエス様のこの命令の言葉は、今でも教会に響いています。初代教会の弟子たちは、強烈な熱情をもってイエス様の命令通り宣教活動に出かけて行きました。聖フランシスコ・ザビエルも同じでし

毎年、何人が洗礼を受けているでしょうか？ 何人が神様のことを知るようになったのでしょうか？ そこで、私たちは、何をしなければならぬのか？ そのことを真剣に考えたことがあるでしょうか？

日本人は、洗礼、堅信、結婚、葬儀は教会で行つても、それ以外はミサにも来ないような状況が

しみも多いですが、すべてが喜びとなるのです。宣教においてフランシスコの心を支えたのは、神への愛と他の人々への愛でした。聖

私たちは一人ひとりが宣教者となつて、世の中に神様のことを証し、福音を日々生きていくことができますように。聖フランシスコ・ザビエルをこの国にお送りくださつたことを神に感謝いたします。わたしたち一人一人がいただいた信仰という最も大切な賜物に感謝いたします。聖フランシスコ・ザビエルの取次によつて、私たちも聖人と同じ熱意に燃えて信仰を伝え、救いの喜びを多くの人と分かち合うことができますように。アーメン。

ロザリオの月に、聖堂で唱和するロザリオの祈りは、コロナ問題のため今年もひかえる事となりましたが、石垣教会は花束パンフを作り、一日一連ずつ唱えて薔薇の花に色を塗り、十月三十日の主日に、マリア様の御像に一人一枝の花行列を行い、集めたパンフをお捧げしました。

石垣教会は海の星なる聖マリアに献堂された教会です。ミサの後「海の星なる聖マリア、私たちのために祈り下さい」と唱和し、取り次ぎをお願いして帰ります。

女／怒濤の前に毅然たる岬の巖は／地獄の門に打ち勝つペトロの磐／老画伯が精魂尽くして描きたる／うるま島の女王海の星／御子かいなに雲の座に立つ／下界を保護する御母マリア／十字架のさん然たる栄光映えていちに輝くひたい／涙の谷にもだえる子らを／慈しみ守る愛のまなざし／祝福たまわる御子とともに／み恵降らせるじあいの御子／めでたし海の星なる聖マリア／わが魂をみ手に委ねまつる

(レイモンド・オーバン)

時間に制約のある医師に配慮され、公教要理のために自宅まで足を運んで下さいました。

今回の原稿を書くにあたって、河口通信員さん(記念誌担当員)は、各年代の神父様の資料から、稲国神父様の公教要理時の副読本を持って来て下さいました。

今年に入って私たちが、聖書入門書、マルセル・ルトウス師著「共に歩む」を読み合わせて分かち合いをし、回答書を提出した【シノドス】のテーマと同じお話しをされていた内容も思い出しました。

御ミサあればこそ続けられました。回心して御ミサに与ることこそが日常生活に結ばれていく、を実感。重ね重ねて八十五歳をむかえています。

海星小学校育ちの三名の子ども達は、父と同じく医学の道歩んでいます。長男は九州大学医学部助教、次男は栃木県立がんセンター部長、三男は東京国立市でアレルギー小児科開業医をしています。三つ子の魂百までとか。海星小学校の友愛教育の賜物です。孫の洗礼の便りが何よりも嬉しいこの頃ですが、今まで歩んできたこの道の全てで、生きる力を頂き、新しい心を頂き「信仰の贈り物を頂いた」と思っております。

視力も落ちた現在ですが、神様に心の目は見えますようにとお祈りし、海の星なる聖マリアさまを尊び、力強いとりつぎを願ひ続けていきたいと思ひます。



聖堂には、二つのマリア様のご像があります。祭壇にあるご像と、摩文仁の平和祈念像を制作された山田真山画伯が、一九五五年、海星幼稚園開園時代に描いて捧げられた「海の星のマリア」です。

六十七年間、私たちを見守って下さっていたみが進んでいて、補修が待たれています。

初代主任司祭オーバン神父様は、海の星なる聖マリア様に、祈り詞を残しておられます。

「海の星なる聖マリア」

こんとんたる世相を現はす凄まじき雲の姿／荒波にもまれたるか弱き小舟は／現世の邪悪と戦う我らの姿／嵐に抗する緑の松は情欲のさそいに耐えいる清き乙

私の受洗のきっかけは、長男が海星幼稚園、小学校で教えられた、マリア様や神様の真つ直ぐな言葉に心を動かされたことです。教会に行くようになり、一九七六年、高山神父様より洗礼の恵みを頂きました。三〇年前、五十六歳で帰天した夫ルカ富川盛博は、石垣教会歴代日本人神父で一番長くいて下さった、八代稲国神父様より洗礼を頂きました。夫は、石垣生まれ。八重山高校(Sr.漢那と同期)に学び、その後、医学に進んで富川医院を開業しました。稲国神父様は、

二十五周年記念事業、体育館建築、主任司祭として教会の四十年記念事業をなさいました。

私の三名の子どもの校長先生でもあります。十月の司教様の公式訪問で、長崎のコンベンツアル修道院に移動なさるとお聞きして、皆さんと感謝と健康を願ひ、お祈り致しました。

夫の帰天後も教会の皆様とともに、財務会計やレジオ会から高間会になった会で役割を頂きました。これまでに、五十

夫の帰天後も教会の皆様とともに、財務会計やレジオ会から高間会になった会で役割を頂きました。これまでに、五十

待降節を迎えて…お交唱

「教会の祈り」(聖務日課)の

晩の祈りでは、福音の歌として「マリアの歌」(Magnificat)を歌います。この「マリアの歌」の初めと終わりには交唱(アンティフォナ)が歌われます。待降節の後半にあたる十二月十七日から二十三日まで歌われる七つのアンティフォナは、伝統的に「お交唱」と呼ばれています。

その名の由来は、いずれの交唱も「おお(O)」「と」という間投詞で始まるからです。それぞれの交唱のことばは、旧約聖書の預言書(とくにイザヤ書)や知恵文学などに基づく救い主への呼びかけです。そして、各交唱の結びは「来てください」と、救い主の到来を待ち望む嘆願になっています。

◆十七日

おお、すべてを越える神から出た英知よ。あなたは果てから果てまで、すべてを力強くやさしく整えられる。賢明の道を教えに来てください。

◆十八日

おお、イスラエルの指導者である主よ、あなたはやぶの火の中

でモーセに現れ、シナイでおきてをお与えになった。力をふるい、わたしたちをあがないに来てください。

◆十九日

おお、民の旗印として立ったエツサイの切株、あなたによって諸国の王は鳴りをひそめ、民はあなたに願いを求める。時を早め、わたしたちを救いに来てください。

◆二十日

おお、ダビデのかぎ、イスラエルの家の王しやく、あなたが閉じれば開く者はなく、あなたが閉じれば開く者はない。とらわれ人のくさりをたち、やみと死の陰にすわる人を救い出しに来てください。

◆二十一日

おお、さしのぼる朝日、永遠の光の輝き、あなたは正義の太陽。日のあたらぬ陰に生き、やみにうもれている人を照らしに来てください。

◆二十二日

おお、諸国民の待望の王、神と人とを一つに合わせる礎の石。あなたが土から造られた人を救いに来てください。

◆二十三日

おお、インマヌエル、わたしたちとともにおられる王、立法者、

諸国の民の希望、救い主、わたしたちを助けに来てください。

この七つの交唱の冒頭をラテン語で表記すると以下ようになります。

“O Sapientia” (英知)

“O Adonai” (主)

“O radix Jesse” (エツサイの切株)

“O clavis David” (ダビデのかぎ)

“O Oriens” (朝日)

“O Rex gentium” (諸国民の王)

“O Emmanuel” (インマヌエル)

これらのラテン語の“O”の次にくる単語の頭文字を逆から並べると、“ERO CRAS”となります。これは「明日、わたしはいるだろう」という意味で、各交唱の結びの「来てください」という嘆願に込められていることばとされています。また、これらの七つの交唱は、ミサの中でも歌われます。「教会の祈り」の順番とは異なりますが、十二月十七日から二十四日までのミサのアレルヤ唱として、冒頭の「おお」を省いて歌われます。

救い主の到来を待ち望みながら待降節をふさわしく過ごしてまいりましょう。



新垣王敏氏の本の紹介

ゴザ教会 稲福 捷夫

コロナ禍が三年目になんなんとしている。その間、空間的な移動が憚られ、従来当たり前に行われていた年中行事等が縮小され、幾多の催し物が中止せざるを得ない状態が続いている。そしてマスク姿がすっかり常态化してきた。

私等のような後期高齢者は有り余るほどの時間を手にし、「暇を潰す」という贅沢な悩みを抱えるようになった。私などは八十を好いことにして無為に過ごすことに決め込んだ。結果として、テレビづけで「ぐうたらな生活」を送る羽目になつていく。

そんな中、新垣王敏先生の本と出会った。本のタイトルは「神詠短歌―みそひと文字の頌」。

それは「早天の慈雨」そのものだった。言葉一つ一つが心の琴線に触れ、私の魂に染みこんできたのである。この感動を共有したくて、その本の紹介文を書いている次第である。新垣氏は短歌の形式の魅力について次のように語ってい

る。「短歌の形式には、三十一文字という表現上の制約がある。しかしこの形式は、ある意味で、厳密さと密度の高い、集約された言葉と向き合うことが求められるものである。(中略)短歌には、人の心を揺さぶる、聞くものの心に届き、共鳴し、心が動かされる力がある。」そして、さすが音楽の専門家である新垣氏は、短歌の形式と西洋音楽の形式の接点を次のように述べている。『五・七・五・七・七』の五句の前半の五はA、七はB、そして五のAに囲まれた形で、前半のABAが三形式になつていく。そして後半の七・七は三形式ABAのコード(結び)として捉えられ、形式的に『コーダ付き三形式』と言えるのではなからうか」と。

新垣氏はこの本で、伝統的な様式に、新しく「神詠短歌」なるものを提唱しているのがある。

この本は大別して二つの部分に分けられる。前半は三十三首の神詠短歌からできている。その内容たるや、それこそ多岐に渡っている。天地創造、宇宙誕生、三位一体、そしてエデンの園のアダムとエヴァなどを取り上げている。後半では「十字架の道行」を取り上げてい

る。主イエスの受難から復活の希望を神詠短歌で歌っている。

そして、この本の最大の特徴がページに一首だけが掲載されているという贅沢なスペース配分である。これは、この本が一気に読み終えるタイプの本ではなく、黙想しながら、時間を懸けて読んでほしいとの作者の思いが伝わってくる。

さて実際の作品をみてみよう。第三首と第四首である。「物事は二つ同時に その場には 存在できない 独自のものなり」。「人間は 同じその場に いられない 三位の神は 共有できる」。私がこの場にこの瞬間に存在することは紛うことのない事実。唯一無二、掛け替えのない実存。具体的な存在。聖書の「迷える羊」の物語を思い出す。「この場」を私と共有する神は、百分の一の私と向き合っているのではなく、百分の九の私に、丸ごとの私に、一対一で向き合ってくれているということである。そして第三十首と第三十一種である。「善悪の 知識の木の実を 食べるなら 死んでしまうと 神は言われる」。「善悪の 木の実を食べても 死にもせず 楽園追われて 苦難に生きる」。この二つの短歌の間に隠されている言葉は「愛」である。私はこれまでに楽園追放は神の戒めを破って、

知識の果実を食べたことへの罰として捉えていた。楽園を追われて始まる、アブラハムから現代の私たちに続く人類史の出発点は愛だったのである。そこらあたりは聖書では明文化されていない。しかし第三十首では死

教区 NEWS 教会

司教様公式訪問

真栄原教会

王であるキリストに捧げられた真栄原教会にとつて、十一月二十日の「王であるキリストの祝日」は大きな喜びの日です。この祝日に、ウエイン司教様の公式訪問がありました。

記念ミサは、デニス神父様との共同司式で十時より捧げられました。今年は、ミサの中で、八名の若人の堅信式も行われました。説教では、当日の福音（ルカ二三・35〜43）を受け、私達は神様の子供として生活することにより、天の国に入ることができるとして日々の生活にあつて、病氣や苦しみ、悲しみなどの困難にある時は「イエスよ、イエスよ、（私をどうか思い起こしてください）」と一言呼び掛けるだけで、聖

んで当然のアダムは楽園追放という罰で済まされたのだ。これこそが愛である。なおこの素晴らしい本は市販されていないことをお知らせする。ぜひアマゾンでご入手していただきたい。

霊が導いてくださる。言葉ではなく、祈るという行為そのものが信仰の本質であると、私達そして受堅者に教えてくださいました。

- マリヤラファエラ 邊土名 希芽
- マリヤ サントスゾイ
- ベルナデッタ 今井 李
- ジョナ サントスジェナス
- リアナ 渡名喜 千恵
- ロレンゾ 渡名喜 千聖
- ロレン 稲垣 清奈
- ヤコブ ネコル ジョセル



ミサに引き続き、僅かな時間でしたが、信徒ホールで語らいの場を持つことができました。受堅者からの質問には、沖繩との係わりがキングスクールの



と、しつかり行っていました。相変わらずのコロナ禍で短縮バージョンの懇談会でしたが、信徒一同とても幸せな時間を共有することができました。ウエイン司教様、これからもよろしく願っています。（千村次生通信員）

教区女性の会定例研修会

十一月十二日土曜日
安里教会 二時〜四時三十分
参加者 四十九名

新しいミサの祈り、言葉を味わう

二〇二二年十一月二十七日の待降節第一主日より『新しいミサ式次第』が実施されることになりました。教区女性の会定例研修会で、会の指導司祭フランシス神父様が、横浜教区典礼委員会が作成した「新しいミサ式次第」の動画を用いて指導してくださいました。

教師として、四〇年程前に真栄原の地に赴任したことに始まること、そして当時の教え子がこの場にもいることなどを話されています。逆に、堅信を受けた若者達には、「なぜ堅信を受けたのか」と質問されていましたが、「知らない間に申し込まれていた」という模範的(?) 回答に一同爆笑する場面もありました。その方の名譽のために断っておきますが、堅信の準備は担当シスターのも

第二バチカン公会議（一九六二〜一九六五）における典礼刷新で、それまでラテン語が使われていたミサの言葉にそれぞれの国の言語を使うことが認められました。まだ子供だったわたしも記憶があります。侍者の男子たちも応答のラテン語が日本語にかわりました。また、信徒のミサの祈りもラテン語から日本語へ、そして新



しい典礼聖歌がつけられました。公会議前は聖堂の奥に祭壇があり、背面ミサといって、司祭も信徒もおなじ方向を向いて十字架を仰いでいました。それがバチカン公会議以降、司祭と信徒は対面して聖なる祭壇を囲み、キリストと共にミサを捧げる形になりました。初めは戸惑いましたがしだいなれていきました。

今回の研修会では、動画で改訂の説明を聞き、模擬ミサの動画では、ミサの中の祈りの言葉を、手元の祈りの本の文字を目で追うことなく、大きな画面上の言葉を見て唱えることができました。流

れも動きも動画で確認でき良い練習になったと思います。質疑応答では各小教区のミサの先唱担当の方々から質問が続きました。慣れ親しんだ祈りの言葉から新しい祈りのことばへ変わることには、不安もありましたが、信仰生活の中心であるミサについて、祈ることばについて、立つ、座するなど動きの意味、静かに注意深く神のみ言葉を聞く、み言葉を黙想するなど、改めて考え、深める機会になりました。お帰りの時の参加者の表情がはれやかでした。神に感謝。フランシス神父様、ありがとうございます。

(開南教会 棚原恭子)

教区青少年 クリスマス会へのお誘い

日時：2022年12月18日(日) 午後2時～6時
場所：聖パウロカトリック普天間教会
申し込み：各小教区主任司祭
申し込み締め切り：2022年12月12日(月)
参加費用：無料

▲▲▲▲▲ スケジュール(予定) ▲▲▲▲▲

2:30～3:30：御ミサ(ウエイン・F・パート司教主式)
3:30～4:30：バーベキュー
4:30～5:30：クリスマスケーキ・ゲーム・ダンス
5:30～6:00：クリスマスプレゼント
6:00：解散



計報

- ◆名護教会
ヨセフ 屋嘉比康隆様
二〇二三年十月二十八日帰天
享年九十二歳
- ◆小禄教会
ルルドのマリア
ジエニンクスミ様
二〇二三年十一月二日帰天
享年八十九歳
- ◆開南教会
マリア山入端千恵子様
二〇二三年十一月二日帰天
享年八十八歳
- ◆首里教会
ユリアナ町田繁子様
二〇二三年十一月六日帰天
享年八十五歳
- ◆与那原教会
マリアクロリア徳村チル様
二〇二三年十一月十九日帰天
享年一〇三歳



葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬典社

- *創業30数年・・・。
 - *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
 - *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
- 「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059



主日・クリスマス・新年のミサ時間案内 Mass Schedule

教会	主日のミサ Sunday's Mass		クリスマス Christmas		新年 NewYear	司祭 Priest	TEL
	日曜日 Sunday	土曜日 Saturday	24日(土)	25日(日)			
名護 Nago	10:00		19:00	10:00	31日 19:00 1日 10:00	マイケル・ヴィン師	0980-52-2241
愛楽園 Airakuen	8:00			8:00	8:00	マイケル・ヴィン師	0980-52-8379
読谷 Yomitan	8:00 10:00		19:00	日本語 19:00 英語 10:00	31日 19:00 1日 8:00 1日 10:00	リカルド・ブガス師	098-956-3789
石川 Ishikawa	9:30		19:00	9:30	10:00	藤澤幾義師	098-864-2084
具志川 Gushikawa	9:30		19:00	9:30	31日 19:00 1日 9:30	サニー・カンティラーノ師	098-974-3643
泡瀬 Awase	9:30		19:00	9:30	31日 18:30 1日 9:30	ヨゼフ・ブイ師	098-937-3598
コザ Koza	8:30		19:30	8:30	10:00	ピーター・チェ師	098-937-7064
普天間 Futenma	9:00		19:00	9:00	31日 19:00 三が日 9:00	ナビーン・セクウェーラ師	098-892-2503
真栄原 Maehara	10:00		19:00	10:00	1日 10:00	デニス・フェルナンデス師	098-897-7484
首里 Shuri	9:00		19:00	9:00	9:00	ボスコ・ティン師	098-884-4787
安里 Asato	9:00	19:00	19:00	9:00	9:00	フランシス・ティエン師	098-863-2021
開南 Kainan	9:30		19:00	9:30	9:30	古川政孝師	098-832-3037
小禄 Oroku	10:00	19:00	19:00	10:00	10:00	マキシム・デソーザ師	098-857-2128
与那原 Yonabaru	9:00		19:00	9:00	三が日 10:00	クレバー・ディ・ソーザ師	098-945-2355
大里 Ozato							
宮古島平良 Miyakojima			19:00	9:00	10:00	ヨアキム・ホアイ師	0980-72-2445
保良 Bora				14:00	14:00	ヨアキム・ホアイ師	
南静園 Nanseien							
石垣 Ishigaki	10:00		18:30	10:00	31日 18:30 1日 10:00	ロドニー・モンディド師	0980-82-2322

※宮古、南静園のミサは現在休止中です。スペイン語ミサは来年以降の予定が未定のため、掲載を見合わせています。読谷と普天間でのスペイン語ミサについては、直接主任司祭にお問合せ下さい。